

意見交換会 (抜粋)

パネラー：巻口公治，笹木勇一，松村博文，辻谷英樹 (講演者，敬称略順不同)

司会：企業支援部長 石井 誠

石井： これより意見交換会を始めます。会場の皆様からご質問・ご意見等ございませんでしょうか。

■「地域材」の定義

会場： 地域材の定義で、「道内で産出したものを道内で加工」と縛りをかけています。針葉樹製材の場合は可能かもしれませんが、広葉樹・木質ボードも含めるのか教えてください。

巻口： 道内の森林資源の現状では、出てくるのは人工林の針葉樹材が中心です。人工林の針葉樹を使っていただくのが基本と思っておりますが、フローリングのように広葉樹が必要な場合もあります。道ではそこまでも地域材を使わなければならないとは考えていません。

会場： 例えばボードを作るときに、道内に加工工場がない、あるいは道外のチップを使うと言った場合に地域材ではないという解釈になりますか？

巻口： 工場が無いものは仕方ありません。地域材の定義に入りませんが、使うことはできるようにしなければなりません。「地域材」の定義を明確にし、一人歩きしない仕組みにしようと思っております。

■ 木製サッシの価格

会場： 木製サッシの価格が高くて使えないというお話がありました。実際に樹脂やアルミのサッシと比べてどの程度までなら高くても使えるとお考えですか？

笹木： 木製サッシは樹脂サッシに比べて2倍程度の価格と聞いています。2～3割程度の価格差なら検討の余地がありますが、2倍となると採用は困難です。

辻谷： 民間の工事では、樹脂サッシの5割増し程度と聞いています。公営住宅では、とにかく建設コストを1円でも下げることが求められているので、少しでも高いと採用できないのが現実だと思います。

会場： 公共住宅だから安くなければいけないということでは、木材を使うことはできないのではないのでしょうか。

辻谷： メーカー側でも数が出ないので価格を下げられない側面があると思います。一方ユーザー側からす



ると高いから使えないということです。このままでは状況は変わらないので、行政を含めていろいろな立場の方が共同して、数を出して価格を下げしていく取り組みが必要だと感じています。

笹木： 木製サッシが優れているのは十分理解されているので、値段がこなれば本当に使いたいと思っています。コストの上限が決まっていて、何から削っていくかとなると、木製サッシは最初に目についてしまいます。現状の価格差では、「樹脂サッシではだめなの？」と言われたときに説得することができません。木製サッシを使いませんかという提案をしていますが、発注者はまずコストありきというところがあります。

■ 補助金は使えるか

石井： 公共物件では基金や補助を使えないのでしょうか。

巻口： 基金や補助を使って施設を整備するのは、木の良さの普及啓発あるいは消費拡大の波及効果を期待するという趣旨ですから、そのような波及効果につながるものであれば、お金を出すということはありません。しかし、窓そのものだけでは補助金の対象にはなりません。建物全体で考えなければならない問題です。現在地域材利用推進方針を策定していますが、コストの問題はついてまわります。当然、建設コスト・維持管理コストを低減することを考えた上で全体を見て、木材が使えるというものにしていかなければならないと思っています。

■ 大型木造店舗をめぐる問題

石井： コープさっぽろ西宮の沢店の躯体に使用しているエポキシ系接着剤の硬化に必要な時間はどのくらいですか？

笹木： 通常鉄骨なら 10 日で立ちあがりますが、当初は 40 日必要でその間他の作業ができないとのことでした。今回はエポキシ樹脂を注入した特殊な工法を採用しましたが、接合部に金物が露出する工法もあります。店舗を木造で、バックヤードを鉄骨造などの複合も検討しましたが、法律上の問題があります。

コープさっぽろ側でも木造店舗を作りたいという意向はあるのですが、やはりコストが問題になります。正直なところ主フレームだけで 5 割高いです。公営住宅では木造がコスト的に有利というお話でしたが、大断面集成材を使う大型の建造物では間違いなく鉄骨より高くなります。しかし、その良さは十分理解していますし、本当に使いたいと取り組んでいます、コストと法制度が問題となっています。

■ 原木価格とコストダウン

会場： 道内で生産し道内で加工したものが地域材とのことですが、現在我々が地域で間伐する木材の 7 割程度が道外へ出ています。カラマツでは合板材の方が高く売れるからです。1m³あたり 2～3 千円違います。これでは道内の加工工場は原木が調達できないと聞いています。さらにコストを下げるとなると、材料は全て本州に出て行ってしまうのではないのでしょうか。

巻口： 経済活動ですから、良い製品を安く作るということはやっていかなければなりません、木材の持つ意味をどこまでコストに反映できるか、良さを理解してもらって納得してもらえらるまでがんばるしかないと思っています。コストダウンを図りながら木の良さを啓発していった、どこかで良い状態になっていくようにしていかなければならないと思います。



■ 森林整備加速化・林業再生事業

会場： 森林整備加速化・林業再生事業で民有林の間伐を行っています。このような形で川下にも、公共物件だけではなく民間の住宅にも地域材利用に対する補助が必要ではないでしょうか。

巻口： お話があった間伐事業は、木造住宅を作った同じ基金で実施しています。この事業は 23 年度で終了の予定ですが、道でも継続と川下対策を要望しているところではあります。昨年暮れに補正予算で基金の積み増しがありました。このお金で公共施設の整備もさらに追加してできるようになりましたが、それに加えて民間住宅等への地域材利用に補助が出る仕組みがありますので予算要求をしているところではあります。

■ 都市における木造公共建築

石井： 都市部で木造の公共建築物を建てることは期待できるのでしょうか？

松村： 十分可能性はあります。ただし、公共建築物で木材を使うときには気をつけなければならないことがあります。公共建築物の宿命として、建設時に予算は付きますが、維持管理費は非常に厳しい傾向があります。例えば、足場をかけて塗装し直さなければならないような、メンテナンスに大きなコストがかかるような木材の使い方は避けるべきです。

また、木材を大量に使えば、魅力的な建物・空間ができるわけではありません。木材を使うこと自体ではなく、木材を使って良質で魅力的な建物・空間ができることを目的としなければなりません。道産材利用を道行政が後押しすることにより、“ダサイ”建物・空間がつくられることになっては、道民の林業や林産業、木造建築に対する理解は得られないでしょう。

さらに、良質な空間を創るためには、建物だけではなくて什器や家具も含めて、道産材利用を考えていくことが重要です。魅力的な建物をつくっても、中に入ると、家具や什器が“ダサイ”と台無しになるからです。

石井： 時間になりましたので意見交換はここまでとさせていただきます。講師の先生方ありがとうございました。

(文中敬称略 文責：企業支援部 技術支援グループ 鈴木昌樹)